百人一首和歌始衣抄 全

208
90

国立国会図書館藏書

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用

百人一首和歌始衣抄 全

茶飯吉奈良京橋
山東源京伝

208
90

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用

百人一首和歌始衣抄自叙
昔周昭王以翠鳳之毛為二裳。
一曰燠質二曰暄肌矣。今也松
系館深孔雀為衣裳曰之跡著
曰始衣裳也。通之衣裳以八丈
為紬藏衣裳以木綿為錦也。
如其以錦為木綿以八丈為紬。
正人一對稅始衣抄而。為百文

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用

二朱通用物而已

天明七年丁未孟陬

楓葉山東隠士京傳老人識

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用

をうしなはてん。やまとはでの安(ヤス)からはいを
称かつての奇とはそ。ざ手きものするはさし
あはしも少ゆるるか。こぬのをの歌えくは
どのなさなりどまハ。海川原の浦濃(うらの)から
かくなるか。ならぬ代乃先たち。在中(ざいちうじゅう)は悪
奇のさ毎紙。今津ハ乃川波れをとしもなし
小法つかし悪。ちもやうぬるものやハな
まり。今ならぬ所じをいたくそ。をくしきや

ぬりはきれぜ。夜さすらしの庭(ふい)のあら
頭しく。詠(ちう)ぞ毎の心法さく。和田のいらね
ふ称。こくてふぬしたちのかのうりた我行ま
まぶやもなるんかしや。君ゆ川波よかしらお
なぐさくふが清しハ。そ乃奇のちも悪
むそじあまりの川原どハぬ方ならぬ。ひ婦
ぬるりやあらむ。やあれかしまほひとへり。
ゆらぐし海かのふちどりやもふ。むふの人

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用

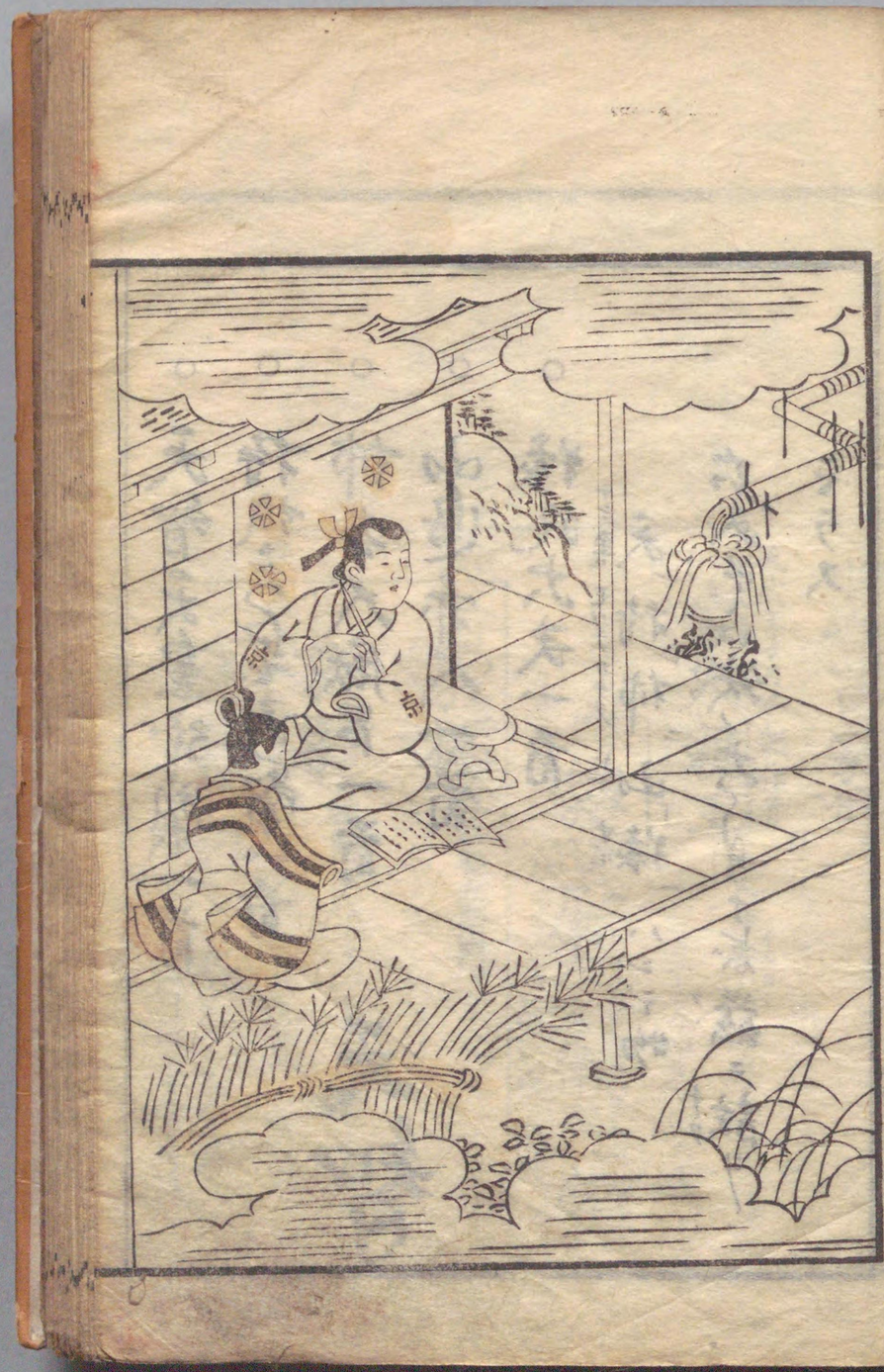
ゆぬ。あの子らにほとゝぬほゝゑにしきや。
是かれの人ほまさだるよのおろ程ど。人をも
草もはさげらめや。たゝいその弄のしり
まへまでハくつけ也ど。八重むぐらの志ぞ見
をもゝ悩ぬ。かつ秋の田乃かりそめ也ハいへれど。
松ゆ月なくそ也川ゝ志歌ハその御をを
枕がこゝにもおほ姫ま志。也ゆゑいるもの山法
界ゆふ山みゆる。松志ものしきをそ也ゆふ深ゆ。

ハウ　ロノ三

ゝ志ゆく乃尾の。玉濃もるゝしなしあり日れ
ど。ほとゝぬきとめくしつけその。いとぐちり。
こゝりくのもり乃しゆりなんどのびく。なふ
ほぐるみじかきをもて。山どりの志ぐり
尾乃。ながじしごとを。ほひのかしろがしたゞ
り大ゆるてふ。源ゝなもの傳ほ也ゆぬ

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用



国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用

天智天皇御製一首
持統天皇御製一首
柿本人麻呂一首
山邊赤人一首
猿丸大夫一首
天持柿山猿ハンジ物
右文字口決ノ大ナレバ茲ニ註ヲ
モラス

天智

ハツ　ロノ文

中納言家持
天武王子日本記作者
家人親王
又作舍人
家田屋太右衛門尉
新吉原娼家
家橘　市村羽左衛門
家暮　坂東三八
家持　一説ニ此人リンキフカクテ。ソノクセニ紋所ハ通ナモシユヘニ。通ナ紋ヤキ持ト号ス

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90
ガラス使用

橋なはちかぞろ四ツ谷しん者りらこそさやあらん人の考不

天経或問 二曰
九星失光而南方之落分野
○九星トハ九ヨウノホシ十文目ノ所ジヤ。金ノ光リヲウシナツテ南方ヘアソビニ行ク

傘 コトヅ

史記註 二曰
笠有柄者謂傘

鷺 一名雪客

かさゝきのいこせる橋をとく君乃志ろきをこれを鶴そふけ所以る
ふ川の志き橋なのとく君といふおじやれの名をよめり

かさゝきの○たく君が春六月天王のまつりにさぎむすめの家ぶんとしやうせしゆゑ
かさねどりの不ある也人傘鷺のとよめるゝ

いこせる○さぎむすめの志よさは君ゆりの大志ろけまてその也きまりちゆるいこ然らふいものにうんてこひとあつくしとひとりのいらいものは三田のあらきでうらふといふいまひとりのこうらいものは

ハツ 一

元三大師御闘之記 二曰

十二大吉	
楊柳遇春時	ハツ山の去のけしき
牛放桃林南	牛ハ高橋の南にあるぞ
重々霜雪裡	とくまぬがさしきのうち
黄金色更輝	そうなるのかゞのひかり

川柳矣

柳樽 三編 二曰
「イのあるとおいとが不のさゆく云々」
「とくしもがきゆくも山のいもらさらまいもあるべし」

橋をとく君の○橋なのとく志もといふ事之
家名とおじやれの名をよこ入さり

志ろきをこれを○ひとりのいらい者はじやうこ
りく日な橋の白木ゆきてこれバりをや
よの四ツをさまて出て志まひし也ゆゑ
おこしていこをとくの人なり

鶴そふけ所以る○それから不川までもとり
さるゆへよがふけてりをやちやぶんなさんで
志まひとふ事にあいね也へきゆく人はうん
しゆくおこしてそのうりてきこいこ然ひへで

日な橋の白木がゆきひとてたがいまいこをせり
あいし也へいこせるとよめり

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90
ガラス使用

年内雪蒙催所衆瀧口参

白氏文集 ニ曰
誰言南国無霜雪
○南国トハ品川ノコトヲイフタモノジヤ
霜トハヲク霜ガ
雪トハ綿ノコトジヤ

白木屋引札 ニ曰
大安賣仕ル

らうらへけざしたりそれぞへとけると
とめたりとんざもめてまわりさおかれば
よくゝ引書とんくらんがふべし

東鑑 五十二巻ニ曰
被行泰山府君百怪
白鷺等祭云々
今ゆるまこいつもさぎ娘の
ちやぢんじやアねくら

毛詩 ニ曰
振鷺二王之後来助
祭也
○振鷺トハ振袖ノムスメガ鷺娘ヲ。ヲ
ドルコトデアル。二王トハ妙国寺ノ。二王ノ
コトゾ。助祭トハ天王サマノ祭ジヤ

一説
宮治の茶つこの
せがれありといふ
今一ぷく一せんの
かけあんどうにその
名のこれり

喜撰法師
四十七騎一人
喜太八 竹森
喜三太 御厩
喜三二 画双紙作者
喜三郎 小野川
喜四郎 吉原越前屋
喜六 佐川田
喜長 沢村長十郎
喜瀬川 大磯遊女
喜撰
喜代三 若女形

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用

我いねいみやこのさろこしらそまむ
よをうち山と人いふなり
赤石須磨治帝といふ人淳川のげい
しやと思ひさしまをよめるなり
りうりいねい○おれがなじのおいねといふ仲町の
げいしやい
こやこの○りとよしはらでこやこのといふ
如ゞであつたが今は淳川のよびごしはなりてゐる
さろこ○淳川を辰己といふ江戸よりさろこは
おさるまへ
しりぞすむ○これはなぞとしらぞといふ文字
をとこてよめばしりをなりまはしのやぐは

人はいふなり
列子 ニ曰
以徳分人謂之聖人以財分人謂之通人
トカク人ニ金ヲ
ヤルデ通ダトミヘル
白虎通 巻ノ三ニ曰
聖人者何聖者通也云々

入ぐるしいゆへよれやぐをこしらへてゆらく
しりそとしらぬをなぞでよめり
よをうち山と○このゆうよまいぐんなりてい
さざめてなぐひ夜はちとうち山さなぞ
としゆれるざらうとすしらぞのんも
ついぞぬへなようつりんざへとりのおいねい
いろさらうなり
人はいふなり○此大じんりきをまさちしす
ゆへあいりさいりちろん仲丁中のちをりげ
いしやおとこだいしやいなやの女ゆゑ名まんでも
人はいふ此大じんのいふなりよなるその
んをよめり

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90
ガラス使用

そのうちかのおいれハ山の山ハ山にさうじ女ますこと枚と名をうへかるよし今古ゑのまあてこれをりんがふ

八雲抄

つゝのいれハ三輪の山ハ山にしくハ「上ノ句ハ三輪の山ハ山にしくハ」

とふらひさまさせ枚さてるかと「下ノ句ハおいれがつけるなり」

蒙求

孝伯ガ傳ニ

窺見曰此眞深川仲人也

琴曲抄

須磨曲ニ曰

「まゝゑといふもうらの名
「つゝしといふもうらの名

「此大じん物ゝまいまいまいなんざ
まゝゑといふもつゝしといふもうらの時
まれるなり

年代重宝記

守ゐぞんを知ル哥ニ

「子ハせいし丑寅ハそれこくうぞう
卯ハりんじゆまて辰己ふぢんぞ」

「まゝゑこゝのひゆうとくを
不言ともいてゐるゝ

長哥鷺娘ニ曰

「まゝゑのうらべてしほくむよりも下畧

「これハうのたじんうらの時といふ
とんざまちやといへしゆくさ

陽成院

楊柳観世音 佛像圖彙

楊貴妃 事ハ見 長恨哥 楊妃外傳

楊枝屋阿幾 浅艸寺内 事見 指面艸 サシモクサ

楊名介 源氏夕貌巻 三ケノ口決 浅ゆく艸

楊香 二十四孝詩 追虎勛父ヲ 陽成院

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用

「はくはるの

後拾遺集序

はくはるのつくりくと
白糸の思ひこされつ
下田君

河東松之内

のきよりつたふつくはるの
さくはかゝまり

同書曰

こいぞはりていつの
アるに

「岑よりおつる

近江景哥

堅田落一

岑あまさこえてこしちに
まつちくさかさくはなびき
おほ鶴一人令
武部源藏門人
涎繰文庫

はくはるの山岑よりおつるこゝろの川
こいぞはりてふちとなつまねる

むうしむさしの山かさいは孫たづといふ
のこひやくしやうなり見事のむすめをも
てりそれがことをよめるなり

はくはるの○はく羽ねさいなりは正月の中に
のうちはかぎやうすてかの見事のむすめも
おしやらくとやり羽子をつくあそふとも
山岑よりおつる○あねと山岑といひいりとをお
つるといふ山岑よりはおつるがうつくしうりし
こゝろの川○かさいはこゝろ壁と川ぞうりの不

八ツ 五

名頭文字 二曰

岑定鶴亀
松竹

画本十字治川

猿人狂哥

よりともはぞんぞ鶴
ゑさいありぞ鶴ゑ鶴ゑ
岑ゑて鶴ゑなし 鶴

荘子 二曰

鶴不日浴白
おつるは一日ゆあさせずとも
うつくしうりしなり

男女一代八卦

十二うんうりやうの不の三ぶこ
やしなひの母につれてる
鶴の子が千代をうけ
ふるさとのあと

おやしたのはの山岑うつく羽子は川へとちい
りとのおつるが羽子壁へとちはるがお山岑はた
したなく川へとちし羽子とすてからげて
とりあげて来るおつるは壁へとちし羽子を
ゑしやくしてとりえずそのまくすてとく
此根子を地蔵何がしどの毎りかり見のひお
つるが京しやうをせうびしのひめうけはかんのふ
こいぞつもりて○孫たづは一家中のこいとる
やうふとをふせ付られおやしき中のこいをたゞ
とりてかさいぢうのひやくしやうへうりその代
がはりくて今は大ぶ持とあるこゝろ姫のうけ
ふちとなりねる○そのうへおつるは此代つぎ

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90
ガラス使用

和漢朗詠集

鶴帰舊里

おつるがふしきをきてふるさとへかへりしまをつくれり「ていれいゐが古るりし

相鶴經ニ曰

鶴陽鳥也

因金氣

おつるはとうく今こそふんのある生れつきし

花扇書待乳山碑銘

名月やこうみの二ツ鶴とまりち山

五町

やどしれれをその御きうぎとて孫なるつ
ふみ十人ふちくぐされるされをふちと
なりぬるとはよめり

兒女唱 唄ニ曰

おつるがうぼこあけてこよ
ふうよしみよしわらく
わらのけ

「此おもうさいまて
うさひ出しなるべし

江戸砂子

「こんかんはふりとのつるや
うこめらんよりまんぢう
いたまごなりなり

東海道中双六ニ曰

二ツ鶴このまんぢう
うみ川の名和とアリ

「此おつるがのがれぬ中なるべし

在原業平朝臣

本院左太臣

時平 基經男

金平 坂田

川越平 川越産

コイツハ人ノ名デハナカツタ
ハカマニスルモノダヲキヤアガレ

實平 土肥二郎

仕ニ鎌倉殿ニ

兼平 今井四郎

仕ニ木曾殿ニ

大平 一名シツポコト云

又コイツモバンクルワセダ

業平

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用

「ちはやぶる
道外百人首
なり平のぶ
「ちはやぶるかこくて
かひにさとんうり
下ノ句略
毒虫去ルなり
中日 五千
八日 [illegible]

ちはやぶる神代もきかん龍田川
からくれなゐに水くくるとは
此ぶるはあまねく人ぶる所なれどもそのあ
ゆまちをたゞし口傳をしるす
ちはやぶるゝ○ちはやといふ女詞ありけるが
ある角力取その女ぶをあげてあそびけるに
此女ぶよくきゆくとふるらせありてかの
角力とりをそのよさんぐ云りける
神代もきかん○かの角力とりはちはやに
ふらまくさこしくひとりねしてゐるゆへ

「龍田川
古今和哥集序
秋のゆふべ龍田川に
なるゝ[illegible]ハ
こかとのあるんめよハ
にしきとまんなひ
嵐雪玄峯集
すまひとり
秋のなるぶや
からにしき

いりと女ぶの神代といふをくどひてこそれ
ど神代もきくいれぬなり
龍田川○かの角力とりの名を龍田川といふ
その後角力とりをやめとうふやをたゞ
めとせいをいさしける
からくれなゐに○ちはやはあまりきゆくを
ありくして年あけのぶぶんもせらにはふ
といふきゆくもなくつゝよりこそぞうひの女
房となりてふもゐとけず又さどんうりの女
房となり今はその日をくらしけるの合
るにもかてめしをくふゆうなるまて龍田川
が内ともしらずかのとうふやへとうふのからを

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90
ガラス使用

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用

なみはなさ

上皆記ニ云

いのしあらわも。はなさめも
なし。なうやうのものもなさ
ほなり。もとわしもおなず

伊勢暦ニ曰

吉書始 なるさめきそえ
万より
なるさめはよりひなさむる
んなり 見 公事根源

「こしかきあしの

荘子ニ曰

鳧(カモノ)脛(イヘ)雖(ヒ)短(ミシカシト)
續之則憂

いろはさんか

あ あしはこしかく
てはながし

なみはなさみしかきのしれふしのまも
のなてこのよをとくしてよとや
浮世如夢(ふせいはゆめのごとし)といへるんをよめるなるべし

なみはなさ○各(か)は歯固(はかさ)といへり「はかさめのみ
よりそえてこ人のよはひなさむるをいへり
歯(は)の字をよはひとよむ事なり

こしかきのしの○鳧(かも)のあしのこしかきよよ
そえて人のいのちなかきをいへり「この二句は
はい句の序(じよ)にてさしをいへんかんごえ

ふしのまも○不死間(ふしのま)といへり「ふしとくに生れ

かぶと軍記 羽今せめの頃
かもの足こしかしといへど
これをつがばかなしこなん
つるのなしながしといへど
これをさていうれひなん
又云
師者のなけこしかしと
いへどこれをつがばうるひ
なん海のなをりながし
といへどこれをたくばかな
しこなん

「ふしのまは
不老不死国ノ事ハ
詳 和荘兵備ニ也

三才圖會ニ曰
不死国
人色黒シ而不死セ樹有リ
食之ヲ壽(イノチナガシ)泉有リ飲ヲ
之ヲ不老セ

さるこ才なるらねだ何るのもしかざるなるよつ
とめよはぐんさるなとごしんぶのいひとしか
おぐんぎえ

「のなてこのよ紙○粟飯(あはいて)かしくうちのもちの
此世なれだと又くどくいふさりのえ

さくしてよとや○うかくとさぐしてぬ
よふとはこるひんがけどやといらねせいを
やいくよあり

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用

「あれて此よりとさとくしてよとや

矢根五郎せりふ 曰

こいしをぬぐひむぞうさよこれんさんのまろうぞとゆんぞりうろつてはおよハ 下略

ヲランダ本艸

DO ド
DO ド
N 子
ÆU ウ
S ス
ニ曰

AWANOMOTIMO
IJAIJA ZOBAKIRI
ZOOMEN KOBITAI
NA

ト ダリヨリヨムベシ

異聞集 ニ曰

呂翁 庐生 取一枕授之 中略

寤夢而黄粱未熟 又見 枕中記 ニ

謡曲耶鄲 ニ曰

さてゆゑのまい粟飯の下畧

又考ニ 画双紙金々生儿生榮花夢ニ 侍ルカ

又一説に水の泡で此世をとつくるんなりと云

引去あり又ゆんりゆべきとて

維摩経 方便品 ニ曰

是身如泡不得久立 云々

素性法師

素盞烏尊 神社考 素々法都 道心者 神代巻 辨天経ヲヨシテ町中ヲ クワンケス

素傳 東野州 千葉氏

神田玉池住 素外 谷氏ノ佻人 一陽井ト号ス

素性

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用

今こんと

周易

☷☰ 坤卦文言ニ曰

乾爲天坤爲地以雉音謂之乾以狐音謂之坤云々

○嵐ハちうくかたちあくとんびハとろくてるハひんくうしハかうさるハきゆうく 全相

狂言記

こんくらい
これはいたるゝ[illegible]
こんくらいのかたぶるぞ
かなしき

こんもくらいもこゝかきつゆのかきこゝかん

今こんといひしはたゞりにかゝつきの
なりあまのつきをまち出るかね
此おいそせい法師たちの年の日は王子い
かりくまゐでしこちのきえ

今こんといひ○今こんといひしハさしかきろ
ぬのかくこゝかであんさが

しはかりはかゝつきの○柴かりの男と菜を
かついご男とゆさりきつゆはだらされてひ
るかゝきゆうは日がくれてゐがしれかく かゝさ

なりなけのつきと○あさまでどくとりし夫

なりあけのつきを

観無量壽經ニ曰

若見此光明皆得休息

○ありあけのとりし夫の
光りをこそ二人のものは
者へかとりやうくきう
そくをあさといふことを
とさのかゝ

謡曲敎生石

聖かんのかたちハ有かゝら

とありあけあんどうといふそのつきたる
家を目あてにはしてこゝから

まち出るかゝ○二人の男はよふく町へ出る
うかゝはいさろゆはだらされさかとあとで
まゆけをわらせしるのをしくその
始終をよめり

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用

神祇拾遺 ニ曰
和銅四年稲荷
神影向偶了ニ仲春ノ
初午日ニ故至
今ニ用ユ此日ヲ云々
○白狐社○在一條北ニ

著聞集 ニ曰
稲荷ノ末社ヲ号ス
福大明神ト

舌音譜 ニ曰
ゲヤマノゲツ子ハ。ゲノ子ヲクハヘテ。バヾゲヤ。
ゲヤ・ゲヤ

昔流行唄 ニ曰
むかふの山から狐が三疋でてさく〳〵でてはよれれど
人さくぞるさすやよふかく〳〵よろのしく云々

長おうしろ面
人をいつちることをのこうさ
つきとまるちくしゅうの下畧

大内鑑
子ワリ是の娘ニ曰
どふ子じや狐の子じやものと

三條右大臣

三條小鍛治宗近 刀工

三條右衛門 熊坂ガ手下

三條勘太郎 哥舞妓娘形 京下リ

三條小六 曲マリニ名アリ マリノ小六共云

三條右大臣

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90
ガラス使用

「名ぬしおなく」
伊勢物記
なり平の事
「名ぬしおなくいさ
こゝろくん
名ぬしのおなくよめ入の
名ぬしのうち羽今と
碗とよめり

名ぬしをなくなのふさうやまのさねかつら
人にしられくるよしもう那
名ぬしのおなぐ四千九にてしなのゝ国へ
よめ入せしまをよめるなり
名ぬしおなく○名ぬしのおなぐ
ぬとねと又音お通
あふさうや○しなのゝ国大坂屋といふ高人
家へよめ入しこゝろ
まゝ○とし八四千九でもまだしなのよめのんいさ
でこゝろひものとをかゞやうにまのゆりをして

「さゝかつら
謡曲寶盛に云
墨ハなかれおちてもとの
しらがとなりにけり
「人にしられて
八百やおせさい文に曰
人にしられせんりさ
かさに今ハ口ぐこにか
くごときちめ
「くるよしもうか
世諺問答に曰
室氣志しく事
こりて初て事となる
よって事月といふ云

さゝ孫かつら○さねかりのねがんにかぶるか
づらのやうに白髪をくろあぶらで染
しこゝ
人にしられて○此おなぐいつくふんのようら
ねかの世へこんな女房をもちてもしこゝ
でもしる時ハさきの人さぞあぢられるで
あらんときのどくがりてこゝ
くるよしもう那○ころハ八月下旬なれど
しなのハかんこく世へよめ入してくる夜も
事がふりしこゝよんて来夜事哉とよ
めり

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90
ガラス使用

本朝俗唱ニ曰

三十振袖四十嶋田

和漢朗詠集

白樂天ガ詩ニ曰

昔為京洛聲花客

此おだぐもむかしハ
京のいなかのかさわとり
まておもひやらくをやりし
むすめなりしがとこさう
くらいの詩なり
中むかしかたなの
むすめとそうませてと
いふうさのそやりしも
此おだぐがうろうさとさを
いつるなるべし

一説ニ此人なぐらは
さそわれて六あくぐへ
まふでいるときハ其
やよひのころなりしが
としよりてのそれハ
てつらひぞといひし
より世の人其のつら
きといふとしがよろてハ
火るもきんぢよがよい
といひしをとしそなし
も此人らのうつさ
なるべし

春道列樹

竹本

春太夫

正傳フシ元祖

春冨士正傳

春信

鈴樹氏
浮世繪師

春道列樹

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用

かぜのかけたる
仮名手本忠臣蔵 七段目ニ曰
なみだのうへにかぜうけて
とくハさらざの大ころそ

山かはにかぜのかけたるしがらみは
流(なが)れもあへぬもみぢなりけり

東武深川のほとりにひとりのよめ女あり地まはりと
なるものにてあちこちを歩てこゝあがりとしてい
とびありくうちもあられぬよりてよありら
くじやうのみやうびしといふときくその女の
こゝろざしていられぬなきやうなるをとよめるなり
山かはに○深川までは海のやうに海側(うみがは)にて
山手の方を山側(がは)といふ その山がはの方のそ
さだやふみるよめ女へ
かぜのかけたる○二めんをかこへてあるうちなぜ
とかけたるさゝせんとひきふかげらそのよめ女
のからかせうれ
しがらみは○此ものふうのにしがらみする
身ハしてくへてむくひで
ながれもあへぬも○とてもあちのながれるもれ
まよ男にあへぬれねも
もみぢなりけり○いづれ恋のもみぢなりけり
とあきらめてゐるとよめり

江戸名所往来 ニ曰
深川浦ち依(よ)國(こ)く
船出めし大漲(みなぎ)と
なられも

質屋張札 ニ曰
定
一御法度(ごはつと)之品(しな)類
一切質物不取申
あるまじくす
一御紋附の品并ニ
あやしき質物
一切取申まじくす
一質物八ヶ月限り
お流しに申し候
月日 仲間行事
在判

五明楼墨河文庫
芸扇集 二
上句題入
三めぐりまで納
かなしふかられる川のかよふ

「あんねも

めりやすと四の袖

「いつそあいはいこふ
したとゝもおんよ
あるまひよしな
やつらや

「こちゝ茂なり

謡曲追成寺

「こちゝ茂の郷うけ
とまかる

史記 仲尼弟子列傳ニ曰

犂牛之子騂且角。雖欲勿用。山川其舎諸

○孔子品川ノ山側ニ大木戸ノ牛ヲ見テ曰フ語ナリ

忠親 あかがみ 序

山がハなぞいでさてかく
世ないでくるなり
○不川のあぎやうにあらしたゞめとなる

一説

哥舞鼓惣執頭

慶子 中村富十郎

弘慶子 チヤウセンノ人

辨慶 義経臣

運慶 佛工

恵慶 未詳

恵慶法師

恵美須屋八郎左衛門 尾張町

恵美押勝 道鏡ト仝時ヲ

恵心僧都 名ハ源信

恵慶法師

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用

千載和哥集

舞のめのとの云

「むかしこし松のこそ志へ
それなからむろらの
君をさしてけるかな

「むかしこしといむかしは
あらりでこそといふなれ
松のとは松賀やの瀬山
といつてうつくしい女が
位ざが今いかげもなく
こぼくとは小杖と云て
鳥山がしやりくつ志の
事もむぐらの君をさし
てなるかなむぐらの行し
家も今は住人もなく声
ざしてうりさくの札が出
てゐるとなげきてよめり

本所盲目

糸屋阿房情下三日
目ガツブレタラナヨノ

八重むぐらしけまる君のさひしきは
人こそこえて○なのさはきはなり

中むかしのころしもつ志の出まのつざらしの
かたりに鳥山なまがしとかいるもうりく目は
こえねどもくらからね身代まで松賀や三代
目の瀬山と身うけしてひろそりくらしなる
事をよめる

八重むぐら○とね川の東西は俗に云むぐらも
ちとふりの多くまえて庭のつちと八重十
りんドにもちあげたるなれ此ことの文ッ文
字はまづけしきをよめり

しけれる君の○鳥山は瀬山とふたりまい旧

事アイソノツキルハ
ジヤウノモノ云々

本草綱目

土豹
土中ニ住出形チ
似レ鼠ニ
「コレ俗ニムグラ
モチト云モノ

さびし氣は

茶道大全ニ曰
茶事ハ器の錆
なるを好むまあらず
氣の錆なるを好む也
云々

さびしきは○錆氣ト云り瀬山は女ゝの時より
業るをこのこなる事へさびし氣しつまて住
居のものぞきもこなる瀬山がこのこなれば
さびたものぞきえ

人こそこえね○これなどいきなりのずきの住居
もかんじんの人をもうりく事へこえねとなげ
きてよめり

なのきはきはなり○瀬山もいつたいんをまね人
とうすすとなくしんがうができなりいつしら
あきがきてあるよひそうにしのび出いづち
へかりなんそのんをあきはきはなりとよめるも

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用

謡曲景清 ニ曰
こゝろをとゞきけどとも
かけをこゝぬ盲目ぞ
かなしき

老子經 ニ曰
五色令人目
盲

左傳 巻六
目不別五色
之章爲眛

城州嵯峨五臺山清涼教寺藏版
栴檀瑞像記 二十五牒目ニ曰
文明九年の比なるの陰光破換しけるに
鳥山の何某にてさぐれる細工の者あり
けるにやかて絶遣しなる
これは鳥山が先祖之

貴家御文庫
二条家口傳秘書 ニ曰
一絵を出さる經冊出稿のみ
月日の下絵いたとへ書次すても
筆こゝ書ふ出て出けさぬ稿にすると
蝶鳥のるゝ目を出けさぬやうに出
るゝ出るに鳥丸光廣仁いるの
眼をこゝかつぶして出すにあり是い
いろあるにやロ傳あるべし云爾
今樹にこれは此鳥山より
以来の出法あるべし

源重之
白山左司
重忠 善茶琴ヲ 景清仝時
重井 御乳人
重太夫 重大夫ブシ元祖
重政 氈受 字ハ勝助 爲勝家カ 忠死ス
重山 四目屋抱 遊女
重政 北尾 字ハ左助 浮世画工
重之
豊重 富本門第 田所町住ス

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90
ガラス使用

風といふこゝ

病源論ニ曰

風邪寒熱毒氣

竹取物語ニ云

風おもき人まてはらいとふかれ

傷寒論ニ曰

發陰者七日

發陽者六日

又詳 俵屋振出能書ニ

醫療手引艸ニ曰

風邪六七日不小便頭痛者

風といふこゝ岩うつ波の○あらうつ波のとのまのみくだけてとの城たもふころうれ

いづれの日時よりありけるこゝろどるしなのたゝふみとのりしてひとつの岩をしたりふきらせしきしなとよめるなりし

風といふこゝ○ゑるしなまて名人のさゝへありしまどりきりそのところ風のこちまて身をしいこゝはれどもちんぢんのあせをとりてよふくこちよく仲間のまどりきりをうくやとひけるよりて風といふことよあり

岩うつ波の○あらうつ波のとのまのみ

大ぜいかりてよふくまづゝなまでいあげたり

おのれのこゝくだけて○さゝれどもさきか岩ゆへかのまどりきりども人ささおのれさきとのこゝでくだきしなり

ものゝ城○かの岩をさしてものとのふなりひなのよこなまりなり

たもふころうか○のこゝでくだきてもまだおもきゆへころをうけてよふく人数までころがしてきたりしなり

漢武取郅支進馬肝石帝以此作硯

此古事をよめる

宇治拾遺ニ曰

○いえ不くだりてちりうせよりり

承氣湯與云々

大成論ニ曰

風邪万病爲長

山石うつ波の

文選 海賦ニ曰

飛沫起濤

波ノアラキ事

歌音御詠歌

きさらくやさしうり

波の下畧

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用

「おのれ」

小野篁おのれ字にて 二曰

巳巳巳巳

まてでまること おのれハしも
つきさまるり

「まてでまること公帝の
なりおのれハしもまつきさま
るりといふの硯をまりの
なりや」

「のこ」

玉篇 二

鑿 ノミ

穿ウカツ木ヲ器キ也

めりやす筆

硯のうこは身をしつめ
さむひつめさいことにまあ
ちつとまいしてくださんせ

藤原義孝

朝夷名三郎義秀

新田小太郎義峯

大星由良介義雄

義亮 本田義光男

義松 天川屋長男

義孝

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用

いのちさへ
伊之助 此子ひとくなりて浮世様ニ伏ト云
新内ブシ
仇競恋浮橋ニ曰
とことをぬけ出あきべやにしのびてひとりゐの伏が

君かゝめ おしからさりしいのちさへ
なかくもかなと抑りひけるこの事
むかしをふなあり伊勢の市師のつまとなりしがいさゝかふうぬいさかひして伊勢といふちのこ子をつけてさられけるがその後かさ目なる男の所へさいるんをむすひしをとよめるなりさ
君かゝめ。人いこめよりたゞんといへばたとへきこゝはかさ目なりとも
をしからさりしいのちさへ。此ゆうに市師

おしくもかなと
俗名手本忠臣蔵
七段目ニ曰
女のゆこのあとやさきりしでそろうとらず
めりやす秋の夜
おしくもかなとちかひて筆のいのちも いまこ身のうへに

かゝ去れしワガ身なれどひとりあるこの伊之が乳さへをあてくださるならそまもふしゆうしますうだをおあてくれるなら女房にならうといふとも
なかくもかなと思ひけるうれ。そふいふんといふるをこの男の所へなかくなるとよくワるゆうにかなでふこをしてめてやらうと思ひけるさまをくどく又俗名と敬たり
唐李克用一目眇取号
独眼龍

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90
ガラス使用

山海経 ニ曰
一目国北海之在東ニ
人皆一眼

一説
此女子源氏の紫の
巻をことにふうるはしく
出たる世人の名のこゝ
あらば石山ちかにとり
かのおりたりとおもふ
ゐるとき紫の書き
ふとんをきたるより
ゐらさきをきぶと
いひ給のとんとゐみり
なと下アゆくして名
とす
河東松の内 ニ曰
とんとおちなば
名やさん

紫式部
後小松院落胤
紫野一休 大徳寺

紫姑女 姓ハ何字ハ媚
見ユ 紀原 代醉ニ

紫夕 又濃紫ト云能ス書画香ヲ
角玉屋抱遊女太夫ノ名跡

紫式部 源氏物語作者

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90
ガラス使用

鼻唄 ニ曰

まて二がなめさでしも
さんざよくどひそこ
しやまへり

めくりをしてひてさんしやそれともいつぬまま
くもかくれにしよハ乃つきりね

ある人のめくりといへるこれむれして二朱ま
けたることをよめるなりし

めくりをしてひて○めくりをしあひてし
こしやそれとも○よくしさらに赤羅がうてやう
といふ忍がつきりれどもそれともよくこそてんと
けやうといふんをこしやそれともとよめり

いつぬ乃に○まごろくくかるとこいつぬまま
くもかくれ○とうにがぐろとぜきこんで九から

唐詩選 平蕃曲其二
ムナシク トメテイツヘンノイシヲ
空留一片石
バンコ アリエンザンニ
萬古在燕山
○ムナシク・ナンリヤウ・一片ダケメ・
ゴ石ヲ・トラレテ・シマウタ・
コトジヤ・ソレデモ・バンコノ・
石ハ山ノゴトクアルヲ・ミテモ
ウラメシイ

ちぬはるゑいこの ニ曰

九ぐんこ ありしでら
大しちん
十九十二ヲ
めくりきてその名を
きけバ赤に寺此月ぬけ
いくりらさるらん

どふけ百人一首

ふぢいらのよしあきの
よこの忍の七九三ニるの
あざ上りよめのかちにけ
人もにくまん

とり出さこれで赤羅ハあがろさりにるる
その名を九もかくれとよむ

にし○二朱(にしゆ)とげアやくしてにしとよめり
とふく二朱まけてしまふさるなし

蓼螺(にし)にあらず

よいのつきりか○どふしてこそてもしやうぶよ
いくつきぬけをうさふくと思ふうち夜
いあけたるれさり 「よハトハ弱(よハき)なり

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90
ガラス使用

唐人ノ寢語ニ曰

賭銭輸得清光（トウヅエンシユイテツイン クハン メクリヲウツテキレイニマケタ）

深川嘲哥

「お月さなさく
めくりがさきで

めりやさて松虫

まさり月にめくりあふ
いかれいそでよみぶぶ川
つむ夏みしも一さてじに
とけぬんをさよかるさ
うつとうされてとろび
ねの

哥舞妓大帳ニ曰

お舞妓三めんのかるさ大じんぢしらの方桐の
立木日よけのあみよりこいのくじやくまいわる
あらけ下座の方すぐこのるつみぎある
大こうしていてまく明り

仲ゑ
一 あざ丸のちかみんじつに対穴治川の家ざんぜろ
上使のともむきさろとアワさして入れぞ

素ぎら
一 へこハこ上使といよくもだけさりあざ丸のとう
ぞくかきのさものくしろくとなのれ

仲
一 何がみんとトけとしさまりありとぐらい中より
さんざくとおとす

素
一 十二くめくりあひてこしや家相をもみぬまま
トつぶときろりけにあけしやうじの
うちまて

海老ゑ
一 丸もみまれにしよいのつきねけ作つみじんざん
トあげしやうじあがる

左京大夫道雅

道端賣餅家太郎兵衛殿

道長（ふが）御堂関白

道實 天神サマノヒヤウトク

道成（ふり）ヨウ曲 道成寺ニユ

道無（ふし）アサクサ三ノワ 占者コヲタヅヌレバヂキニシレヤス

女子 松葉屋新造 道汗（ミチシヲ）○ミチシヲホドナク コノゴロハ袖ヲトメヤシタ

道雅

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用

「なむとばかりを」
甲舎一休 ニ云
「なむとこそとなふる人のんこそ出すてさきさまなるそのまゝのこそ」
親寧上人御文章 ニ曰
ナニノヤウモナク
唯一心一向ニ南モト
トナフルバカリヲ

童子教
一日ニ一字ヲ学ハ三百
六十字
「ひとつもならでとしをつくるいせしハ
此後をもふてのこゝろ」

いまハたゝねりひさんなむとばかりを
ひとつてなりていふよしものね
これハおせいのなかへ
いまハ○今般の時といふ
たゝをもひさん○面額と云「たゝかをとひ
さのあさりまでつめさくなりさ」紅顔空壹
そろへ
なむとばかりを○なむとばかりにしゆうこゆう
とゝなふるなへ
ひとつてなりて○日ごろひとつもまなら
ひせでとしをつくるいのこゝろとよめり

女手習状
あをかゝ様ぞつゝまふ
ふじやうなるのこゝま
ありぞ人とまじわり
てこおとされ笑なく
なるあれぞくちとしさ
こゝろぞかし

古状揃
初登山手習状ニ曰
親雨老来後
悔不万也

「いふよしもうか」
中臣大祓
申事乃由於
「これよりなるなへ」

いふよしもうか○あとへのこゝろ子どもへいひとく
なるもこなかなてかゝねばならねといふいひ
なけへそのんといふよしもうかとよめるへ

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90
ガラス使用

論語

人之將死其言也善

遊女白目ガ哥ニ

摩訶摩耶經ニ曰

辟如旃陀羅羊至屠所。歩歩近死地。人命亦如是云々。人ノ命ハヒツジノアユミノゴトシト云

△センダニトハ天ヂクニテ狩人ノコトヲ云ゾ

権中納言定頼

定之進 猿楽 見 深分手綱ニ

定九郎 八介九太夫男 為勘平ガ横死ス

定光 頼光ノ臣 又作貞光ニ 定頼

[illegible]

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用

朝ぼらけ
卒都婆梵文ニ曰
中天 [illegible] アサ
南天 ヨン [illegible] ボラ ボロ ケ ケム
ムカシく天竺ニモ
アワタトサ
早引節用 氣形門ニ 鯔 ボラ
日本紀 鯔 シチメ ボラナリ
一名 ハラブト イセゴイ イナ ナヨシ
順和名ニ見ユ

朝ぼらけ 青砥左衛門が滑川の古事をよめり
朝ぼらけ○青砥左衛門ハやくと世に称すとて
に銭をおとせり川のかしへ銭をとらんに遣さんとて
ぼらけハ錢笑(がらけく)へ出かけへ向かでよ
とかしかくごえ
うぢの川ぎり○はんべきのまつね男まで うぢ
ぐれを付て居るうちまでさぐしてなめり
川へひきりをちーとをかとりの弟めや
のてんやらけつけ引あげてあやうきとた
をけるる
たえ/\に○いのちもさんぐまであぶなく
ひるさとのくり

ぜにの銭ナリ
風俗通ニ曰 錢号為孔方 兄ト云フ如兄ノ也
あしろ木
神錢論ニ曰 錢日孔方 无翼而飛 无足而走
○此語ニてハ錢のかきちを足はし器あるべきろ
「ぜにそくずをと お足ともいふなり」

あらはれわたる○はさりぎたに銭をとりひし
あまりのぜにを川へとしれたるみでなる
き男の人をたのみちうくとりあげこれ
でさがあらはれしといふなる
せゞの○ぜにのとふするなり錢のあやまごえ
あじろ木○これハさをかけてあらひしぬちや
銭のおんどうに出てありしみなを
風俗文選 許六鎌倉賦ニ曰
片瀬川ニハ宗鑑がひげをちらし 滑川ニハ
青砥が銭をさがさせて
太平記ニ 青砥藤綱滑川ニ隨十銭ヲ

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90
ガラス使用

鎌倉武鑑ニ曰

青砥左衛門尉藤綱

モニ形 ビザノ上デ一万石
ナ文錢 西ノクボデ百万石

鎗サヤ ナメリガハ
ヲサヘ 合ア

木 フジロ木ノ木ノ字

時献上 鯔一本

纏 フジ綱ノハンジ物

だんこう記

第十巳級うつまりひのる

▲たとえバ錢を貴のうちまてぼらと六百三十六文まてりひ川へ十文をとしたあとハいつわどぞといふ時法に和藻やへ東代を十二文とをき錢をさがさせ古男日やうを又十文つかはすきものをぬらしこ代の三百文まてまる時ハとハいつてらさがさあとからぬくこんなこうぐなとハ志しらぬへでもよしさ

延喜式 巻之五

五位食法ニ曰

東鰒隠岐鰒烏賊各一両

鮨一両三分

○此ドがんからこんバ級一なが六百三十六文ハ世をひものね

祐子内親王家紀伊

然阿上人

紀主禪師

紀文 紀伊国屋文左衛門○事ハ見吉原大全ニ奈良屋茂左衛門ト仝時

紀上太郎 浄瑠理作者見白石噺ノ跋ニ

紀名虎 見ユ文徳實録ニ

紀伊國屋 沢村宗十郎訥子 紀伊

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用

伊勢物語
からうしてぬまこゝにて
いとくらきよさはりあ
くさ川といふ川をいて
いきゝれて
かつら川の名あり
此たぐひ
ぬれもしてさそれ

元信百鬼夜行 二曰
濡女（ヌレヲンナ）
おまがれいえ
ゐるか

うつれ物語 かつらの巻 二曰
たとく。かつら川のけたり
ある所をもちひたるなり
此川なり

源氏物語 松風巻 二曰
かつらのゐん
おはんもちづと
わうむるのる

音にきく高しの濱のしらゝ波
かけしや袖乃ぬれもしてさそ袖
此なのおはんもちづの和云とよめり

あかさく○ちるにさそえて葉を思ひ人
ぐやといふことを葉と聞とあらへかけてよめり

高しの濱の○高らいやと濱村やと家名の
かしら字を一字ツくよりこれはなのの
もゆうなるべし

しらゝ波に○おまもちづのじゆうるりのげぐさを
名あり淑川の仇波といふ事也

かけしや袖の○おはんをもちづがとふさ時
ふり袖をもちづがかたへかけたる事也此
一句はちよきのふりをよめり

ぬれもしてさそれ○此所にさがひにぬれあり
又かつら川をいふる時袖をかけざれはなる
ぬれもしてすきといふんなるべし

催馬樂 二曰
市川のこまとおほ
いしかハのこまうどよ。
常やもちづがなり
おびをとられて。からさ
くひさる。いかなるおびぞ。
さなぐの
ゆかさ
ゆかさのおびの。ふかさ
いれたる見 奥儀抄 二

名行淑川仇波
おはんをせふにもちづ
あふせそぐはねあざ
ゆめと下略

淨土文 二曰
得夜夢正直心常歓喜
顔色光澤所作吉利 云云

○夜夢とハとふせそぐはねあざあちをとふ浄るりの
名也正直とハ正本の直侍といふの心常歓喜
とハ常くよりも見あがこてよろこぶ顔色光沢
とハ跡考がかれのうつくしきをほむる所作吉利
とハ所作るこゝやうをもてひやうだんきの吉のじも
くろくなるそこでかれとが大ふんの利をもるじやまで

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90
ガラス使用

松本幸四郎ハ琴ノ高仙人の生れかはりしと云説有

列仙傳ニ曰

琴ノ高善鼓琴后得仙乘赤鯉来人間

○錦考善鼓琴后得給金乗赤鯉至京都○事ハ詳也 三ヶ津評判記

これらより出たるせつなるべしなどゝ人ゝふべし

漢書註ニ

鴻聲胪傳之也

○漢ニハ通事ヲ大鴻胪ト号ス

△今スナハチ。文字ヲアラタメ。コウロヲ。サカシマニシテ路考ト云

源俊頼朝臣

後陰 事ハ詳 [illegible]也

後頼

一説此人百人一首ノウチニテノイツチ年音ユヘ名トス

うかつまる人をもつ瀬乃山おろしはきしかれといいのらねりの代

やまとのくよしろがこのこゝりまひとりの

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用

風土記ニ云
泊瀬山和州
在城上郡
此女の名より山の名とす
うぢ神と云ハ
龍田ノ社ナルベシ

女ありせいじんのむすめるともとうちへ出
いこころならねとて母をこしのつてをもと
めてかなろう右大しやうけのわくはてんまき
ごはなのおさへよいざしける此女いろてきん
ぴらな生れつきでもちろんさんきものゆへ
母一日あんど三月の右下りを安ひうぢ
神へ身のうへといのりのこめ母もろとも始
とともなひまふでゆるるをとよめり
うかまゆる○ともにつれし男うつりとの
姫のもてをけるるをありそれをうかりゆる
とよめり
人を○そのともの人をなり

和哥ハ重垣ニ云
たつせの枕云を
こもりくといふ
此女うちよみるときハ
こもりをしゆるゆへ
なりなのたつせと
いふなるべし
くとことを言
お通

たつ瀬乃○その女の名を初瀬とよみおさへ
いこふ此やうな名をつくなり
山おろし○たつせいきんぴらな女ゆへともの人を
いけどんな男ごなどくおもいれおろしさるを
山とハうぢ神のおふでのるを
たけしかきといいのこねものを○そのやう
ふけげしく生れつけとハ此うぢ神へもい
のらねものをとゝ母のこゆへ名を下の句
にこめてよめり

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90
ガラス使用

八文字自笑作
世間娘氣質 ニ云
けむさめ名げしき
生れつきまて 下略
儀同三司母
泊瀬紀行
げそぢうゑるこち
してけおとりして
おぶゆ
「うのはらせと
さげさこて
いふ

女今川 ニ曰
人をめし仕ふるゆ日月のこくどを
てらしのふごとくんをめらし
そのんくにえさぐひてめしけふ
ぬきことなりト云
「これらも此はろせがごとき
女をいましめのけいえよ
なるべし

草刃紙
馬鹿文盲圖彙 中之巻 書入ニ曰
せうちんのまくでをろさい
ろそをろし
さてまをろさい
さておろしト云
「山をろしも
此さぐひえ

崇徳院
人王八十一代帝
安徳天皇 ― 徳宗権現 相州鎌倉
大威徳明王 ― 聖徳太子 厩戸皇子 未来記作者
八大龍王九代後胤
徳刄迦龍王 ― 徳願寺 行徳
中家徳 高輪 茶屋 ― 一寸徳兵衛
玄徳 蜀ノ劉備 ― 貞徳 誂士 松永ト云 ― 桝徳 哥舞妓
三国志

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90
ガラス使用

「山石にせりるく」
兒女哥に
いつちくくちちくさん
ちちむどんのおとひめハ
山石におされてゐくこゑハ
「せりるく」
平今志所譯
水のながれのせられハせるど
よどむもつゝきこの人を
「いれても末に」
助六卯月里　河東ブシ
ひくゝゆるゆるひくこゑがるく
末の松山をへかけていれても
末にあるんといひをぶの
神のちかひなり合
助六所縁江戸櫻
つゞくらゝ栗やにねれて
めるあめのこのこのさへらる
此人をよめり

祭金比羅に
崇徳院
徳治　名見崎
徳治　大谷
徳竹　御厩
芝居番附

淑をたちやこ山石にせりるく淑川乃
いまたくも末にのこんとぞ思ふ
大いそのくるハ萩屋の淑川と云遊女
のゐをよめるこゑ
淑をたちやこ○淑尾隼見といふさゝらい淑

萬葉集
弓削皇子御製哥
芳野河逝瀬
之早見須臾
毛不通事无
有巨勢濃香
毛
「此御家のんハ
淑川が早見を
思ふことをいづくも
さゆることなしと
いるんに」

山石にせりるく淑川の○岩といふもたき川が
きゆくして隼見をせいてよがせずやうほし
くいひしをよろているにせりるくたき川とよめり
「これでも末にのこんとり思ふ○たき川ハ
岩にせられさりやりてにせられさりしても
隼見がゐをいとれるゐたとへしりかられても
中の丁の末のうち茶やでなりとのこんと
そ思ふかさんをよめり
長明
方丈記
たき川のなかれハさえんだ
してしかももとのきゆくに
あらず

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90
ガラス使用

桃草紙 くるしげなるもの
「こゝかさうなさまうらこ
ふすべられさる
「淑川が身これは
とゝかし
とゝかし

宗祇秘中抄 ニ云
山石枕「秋なり
七夕の枕也
「山石ハたき川は
いやうられて枕を
あらぶるなもまれなれば
七夕の枕ともいふなり
半太夫ブシ

黒小袖 たれ
めなこおなこのあるやどよ
さざひらうさをあとよ
なし
「山石といふさゝかし
なしを貞平と云
めなこおなこハ
たき川がかゝるを

○瀬落速見○瀧川
中臣太祓 ニ曰 落瀧津速川乃瀬仁坐須
文字是よりおこるなるなり

姓氏録 ニ云
瀬尾 橘氏 栄花物語 たつ花の巻ニ曰
中宮大夫（右中弁 隼見）
隼人司ト云官ナリ 是よりの名なり
見 前漢書

寫本
歌打古郷錦 ニ
瀬尾勘左衛門好色のゐあり
此人隼人が一ぞくなるか

参議雅経
経若丸
文字経 常盤津門弟
清経 鳥居氏 浮世画工
祐経 工藤 左衛門尉
雅経

みよし野の山の秋風によふけて
ぬるさとにむく夜うつしなり
さるおてらのぼうさなよしつらまてふられ

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90
ガラス使用

「こよし」壁の

助六所縁浮櫻

まちうたてこそてるや
いづここよしの山口
こうら浦くの

「山のあき風」

新吉原細見記

山口屋 ◎ 下

秋風 おぎの あぎの

たるゆをとよめるなり

こよし 壁の ○吉原の様のころをさしてこよし
壁のとなめさるとなれば

山乃秋風 ○角丁の山口やふあき風といふ
如何がありしや

さよふけて ○かのがうず此秋風をうひしが
いつそいやがられ如ゝいざしきをふけてどこへ
かりしなり「さよとはうるさしよといふ」

ある里さむく ○此さとへくるさびごとよかれ
ていく夜中ひとりねをしてさむひめをしてい
うるゆへよしいらといふ所はさてもよく君を
ある里ごとゆふ

「さよふけて」

筑波問答序

ふきはてぬるもいと
あさけあさこちぞ
まるや

こゝろもうつなり

唐詩選 李白

ボウヅノヒヤウトク
萬戸(バンコ)擣(ウツ)衣(コロモラ)聲(コエ)
秋風(シウフウ)吹(フキ)不(ズ)盡(ツクサ)

女郎ノ名

宗祇集 題松下擣衣

上ノ句 略「よるの嵐に衣
うつ川 こゑ」

「嵐といふ字に山口の秋風と
こゝろてよめり」

衣うつなり ○あれががうづ也へこゝろつてゐるのさ
とよふくんづきしゆへどふぞ長さくどりがき
さひものと今はあきりにこゝろもうつ
なりそのんをよめり

伎然草 ニ云
あうしばうりうらゆまし
かしぬものはあらじ

川柳炎 柳樽 五編ニ曰
これも又とかるまへたいるうはざうを

俳諧 とぐまさ 慈詞語ニ云
出家落 ぬうけ をち ぬうむ落 ひじ落

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用

本朝武家評林 巻三十六

秋田城介鬼女物語

文言曰

行末ハ秋風ノ

一夜ニ暦ル人ノ

心見棄ラレンハ

一定也左アフニ

於テハ悔共何ノ

益カアラン

初衣抄終

江次第 十四巻ニ曰

あり平そのころハ在中ねまて 中略

出家せられしがそのうちかうをとらや

さんさめおつのくまやそしまいてる 下略

あり平さくはがうじでハ

りてあんざとこそ

琵琶行

粧成毎被秋娘妬

秋風がコトヲ云

秋風はとんざやきりちやきで

あゆさそうさ

かげろう日記 上

世の中におれかたあるあ後のたしなど

とこれぞよふおれかるそらごとぐまあり

そらこれハ秋風がかけのめす

そらごとも

京極黄門殿小倉山荘ノ色紙

百人一首和歌秘中ノ抄一帖

青樓ノ妓女駒治ニ雖レ傳レ之ヲ堅ク可キ

禁ニ外見ヲ者也

茶飯吉奈良京橋

山東源京傳 在判

天明七歳丁未正月初店日

国立国会図書館 百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用

跋

此書ハ萩江氏豹治が。文庫なるしと。むかしくこゝろ祢の。花にかゝんるをなげき。予ひそかに求めて。そのふるましむ油町の。ぬるやにあらふ。師のこゝろにたがふのつゝ。いふ。れがく。人の口のともいへかくも家様にもとまくなん。我いのちをながゝまて。ぐしこゝろにもれたる。家我注意。詞の〳〵選集をいらハし。跡著衣抄と題しく後編とは

京傳門子月池

朱翁鷄告誌

百人一首 古今狂歌袋 宿屋飯盛撰 古人今人の像并自詠 筥入 全一冊

五十人一首 東都曲狂歌文庫 同作 当時名人像自詠 全一冊

四方のあゝ 四方山人の狂歌狂文を集 全二冊

狂歌 才藏集 四方大人撰 四季点雑神釈共賀 全二冊

通詩選七言古 四方先生著 当世五言を以て作す 中本 全一冊

同 諺解 同作 狂ゞ言詞を注す 中本 全一冊

同 笑知 同作 上のごとく奥多き本 中本 全一冊

狂歌 鱗 鹿都部真顔撰 諸家の秀作をあつむ 中本 全一冊

不老不死 仙家長壽臺 四方山人集 [illegible] 全五冊

狂詩 十才子名月集 四方山人序 同社中詩文 全一冊

狂歌 故混馬鹿集 朱樂漢江撰 全二冊

狂歌 濱のさけど 狂歌のよく安きことはどあつむ 小本 全一冊

狂歌 新玉集 四方山人撰 年の始め歌をあつむ 全一冊

狂歌 百鬼夜狂 四方山人出席 名人等百物語狂歌 全一冊

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用

208
90

繪本武者鞋 北尾重政画 大本全二冊
喜多川哥麿画 歌狂詞乃花 當世風俗東狂ㇺ 全二冊
同筆 歌狂數奇屋金 武者景色等 全二冊
北尾重政画 歌狂百千鳥 全三冊
同筆 歌狂評判記 名ㇺ紀狂ㇺの師匠男枝の役割の趣向 全二冊
同筆 歌狂八十宇治川 武者絵 全三冊
同筆 歌狂立春抄 えのもとあを撰 さいしんの狂ㇺお集 全一冊
同筆 歌狂吾妻挟 江戸名石 全三冊
同作 歌狂福人双六 四方山人撰 打本全一冊
喜多川哥麿画 江戸名石 全三冊
同作 百人一首馬鹿講釈 百人一首のおとぎ ばなし 中本全一冊
山東京傳作 通言總籬 小本全一冊
山東京傳作 暦便覧 ㇺ年かわりてんのめぐりをかんがへやすくしるす 全一冊
喜三二作 娼妃地理記 ㇺ十町を洛ㇺの風俗名所をしるす 小本全一冊

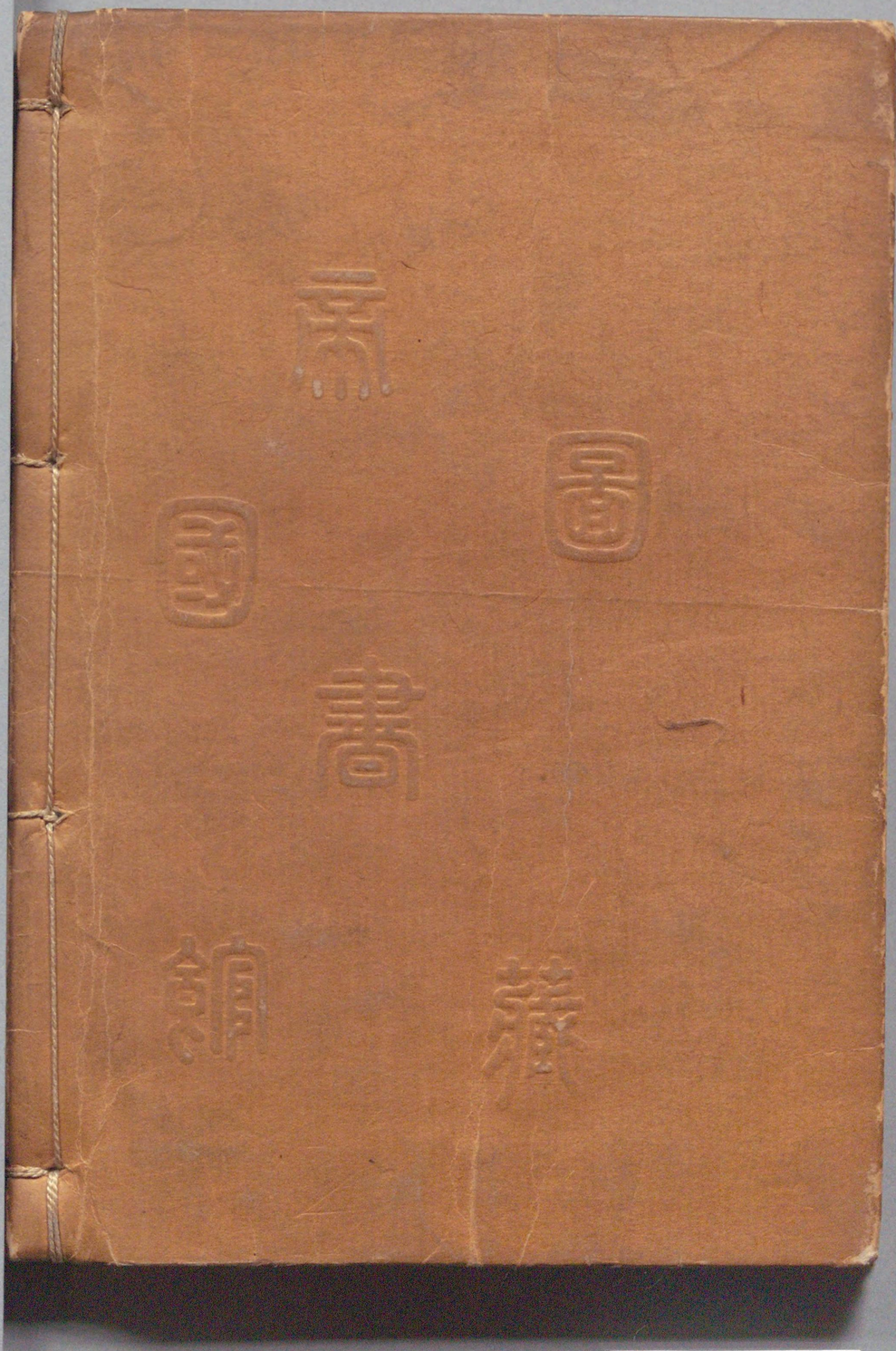
画圖勢勇談 鳥山石燕筆 あやしきものをあつめ ろくろ首ㇺをしるす 全三冊
同作 氣のくすり 當世のおくすり 全一冊
北尾政演画 吉原契情新美人合自筆鏡 駿河屋 きいしきぎり 打本全一冊
北尾政演画 座奥腹筋三略巻 一枚摺
駿河屋亭作 炬花清談 古代柱君客人の隊伍 全五冊
山東京傳作 小紋新法 こんにち流行 全一冊
同作 挿手毎乃清水 ㇺをとりよせて投入のおとをするのみ 全一冊
同作 客衆肝照子 わるびれてござるくんしゃもうす 全一冊
喜三二作 遊君都西美撰 吉ㇺのりのせんのてうちんのおもうㇺをしるしたるㇺ 中本全一冊
同作 遊君雀言柳巷化言 わかいものふんべつをなをさんとするㇺ 全一冊
唐来三和作 契情手管智恵鏡 こんさんてくだのでんじゅをもうちゃ 全一冊
通神三教帝釋 儒佛神の祖でもあれ 全一冊
狂訓 彙軌本記 大つごうのうりかく 全一冊
江戸本町筋北八町目通油町 書肆 蔦屋重五郎

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90
ガラス使用

208
90

国立国会図書館　百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用



国立国会図書館　　百人一首和歌始衣抄 208-90

ガラス使用